

信州まつもと空港の発展・国際化に向けた取組方針【概要】

企画振興部交通政策課

信州まつもと空港の位置づけ

「長野県の空の玄関口であり交流ネットワークの核」

■「本州中央部広域交流圏」構想（長野県新総合交通ビジョン）

- ・高速交通網を最大限に活かし、本州中央部に位置する本県の優位性を発揮することで、本県を中心（起点・終点）として、県境を越えた大きな流動を創出
- ・信州まつもと空港を核とした交流ネットワークが拡充され、国内遠隔地や東アジア等との移動が活発に

■「信州創生戦略」

- ・人口定着や交流人口の拡大のため、県内外を結ぶ幹線道路や生活道路の整備、鉄道網の確保、信州まつもと空港の活性化など、交通ネットワークを形成

■「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり構想」

- ・顧客の受入環境整備として、信州まつもと空港に関西空港等からの航空便を呼び込む

取り巻く状況の変化

■外国人観光客の増加

- ・訪日外国人観光客の新たな目標（国）：H32年 4,000万人 [H27(2,000万人)の2倍]
- ・外国人延べ宿泊者数の目標（長野県）：H31年 200万人 [H26(66万人)の3倍]
- ・H27年は45年ぶりに訪日外国人数が日本人出国者数を上回る

⇒「空の玄関口」の重要性が増す

■全国の航空輸送の現状、機材開発の状況

- ・小型多頻度運航の増加
- ・新たな高性能リージョナルジェットの開発が進行(MR J・エンブラエルE2等)

⇒ 信州まつもと空港を活用できるチャンスが増大

信州まつもと空港の特性

“山岳高原空港”

日本一美しい空港・日本一空に近い空港

- 高い山岳に囲まれた標高<657.5m>の高い場所に立地

《美しい景観》

- ・雄大な北アルプス連峰の3,000m級の山々と一体となった景観
- ・周辺に上高地をはじめとした山岳高原が点在
- ・周囲に整備された公園は、四季折々の姿や賑わいを提供

- 世界水準の山岳高原観光地づくりに向けた貴重な観光資源

《着陸進入方式》

- ・空港周辺の山岳が障害となりILS（計器着陸装置）の設置は困難
- ・国内空港ではGPSを活用した「RNP-AR進入方式※」の設定が進展
- ※飛行経路の短縮や就航率の向上に効果が期待

- ILSに代わり、航空会社と連携して「RNP-AR進入方式」の早期設定・運用

《滑走路》

- ・滑走路の実効長は1,800m程度
- ・現在就航している機材はリージョナルジェット
- ・国内空港に就航している主な航空機材（小型ジェット機）が就航するには2,700m程度の滑走路長が必要であり、速やかな対応は困難

- 当面は現有滑走路の活用により空港の活性化

リージョナルジェットの活用

- リージョナルジェットによる運航を中心とした国内・国際路線の拡充・定期便化を目指す
- 重量（搭乗）制限が必要となる小型ジェット機はチャーター便として就航

◇リージョナルジェットの航続可能距離から、海外の就航先は東アジア地域

◇小型ジェット機による高い搭乗率での運航をビジネスモデルとするLCCの就航については、更なる検討・工夫が必要

◇貨物輸送は、リージョナルジェットの限られた空きスペースを活用した少量貨物

*小型ジェット機：座席数140席から160席クラスのジェット機

*リージョナルジェット：座席数50席から100席クラスのジェット機

今後10年間の取組の「4本柱」

- ① 国内路線の拡充
- ② 空港の国際化
- ③ 観光・賑わいの拠点としての活用
- ④ 空港施設の機能等の強化

【取組の柱①】 国内路線の拡充

◆ 鉄道と競合する羽田、中部空港との路線は困難であり、地方間路線を展開

◆ まずは需要が見込まれる路線の拡充及び開設に取り組む / ◆ 併せて、観光・ビジネスなどの潜在需要の掘り起こしを図り、更なる路線の開設、拡充を目指す

方策1：既存路線の充実

- ◆ 札幌線の夏期増便(7月～9月) / ◆ 福岡線の1日3便(往復)化
- ◆ 大阪(伊丹)線の運航期間の延長、通年運航の復活
- ◆ 利便性の高い運航ダイヤの実現

方策2：新規路線の開設

- ◆ 需要調査結果を踏まえた路線の開設
- ◆ 産業・観光戦略と一体となった路線の開拓

《取組》

- ◇ 就航先(札幌、福岡、大阪)と連携したPR・セールスの展開、旅行商品造成への支援
- ◇ 県内全域からの利用拡大、山梨県への利用圏域拡大に向けたセールス
- ◇ 航空会社との運航ダイヤの調整
- ◇ 路線開設を目指す地域をターゲットとした観光PR・セールス・チャーター便の集中展開 など

《路線展開の目標》

4路線・6便(往復)/日

【取組の柱②】 空港の国際化

◆ リージョナルジェットを活用した東アジアとの直行便を中心に展開

◆ まずはプログラムチャーター便の実績を積み上げ、定期便化につなげる。そのため、観光・ビジネスなどの需要の獲得・掘り起こしや新規需要の創出に取り組む

◆ 特にビジネス需要が中心となる地域については、国内他空港に流出している需要の獲得を図る

方策1：東アジア地域と信州を直接結ぶ路線の開設

- ◆ 東アジア地域の旅客需要特性を踏まえた路線開設を目指す
 - ・ 台湾：突出した観光需要をターゲットにプログラムチャーター便の最重点候補地。定期便就航を視野に入れた需要の獲得・創出
 - ・ 中国：ビジネス需要の取り込みによる定期便就航を目指す。まずはプログラムチャーター便就航による観光需要の獲得・創出
 - ・ 韓国：平昌五輪などを契機としたプログラムチャーター便の就航による観光需要の獲得・創出
 - ・ 香港：小型ジェット機のプログラムチャーター便による観光需要の獲得・創出

方策2：近隣の国際ハブ空港からの乗継路線の検討

- ◆ 関西、成田、仁川空港への路線を検討

《取組》

- ◇ 県内からのアウトバウンド旅行商品や空港を発着地とするインバウンド国内周遊旅行商品への造成支援
- ◇ 県内企業における海外向けビジネス利用の誘導
- ◇ チャーター便を活用した相互の教育旅行の実施
- ◇ リージョナルジェット所有航空会社をターゲットとしたエアポートセールス
- ◇ 平昌・北京五輪を契機とする需要獲得のためのチャーター便の誘致
- ◇ C I Q設置のための国・関係機関との調整 など

《路線展開の目標》

国際定期便：2路線・4便(往復)/週

国際チャーター便：100便/年

【取組の柱③】 観光・賑わいの拠点としての活用

◆ “山岳高原空港” そのものを観光資源、情報発信の場として捉えた活用促進・賑わいの創出

方策1：観光拠点としての機能強化

方策2：信州スカイパークなど周辺施設等との一体的な活用

《取組》

- ◇航空会社とも連携した日本一美しい空港の魅力発信 / ◇信州の情報や魅力の積極的な発信
- ◇空港を発着点とした山岳観光プラン(商品)の開発
- ◇周辺施設と連携した集客イベントの企画実施
- ◇航空機貨物室の空きスペースを活用した地域農産物・工業製品等の取扱い など

【取組の柱④】 空港施設の機能等の強化

◆ 路線拡充にあわせ増加する旅客など、空港や空港周辺への人の流れに対応するため、施設の拡充など空港の機能等を強化

方策1：機能の拡充

- エプロン・国際線ターミナルビル
 - ・国内線拡充・国際路線就航に対応したエプロンの拡張(スポットの増設)及び常設のC I Q施設を持つ国際線ターミナルビルの開設
- RNP-AR進入方式
 - ・GPSを活用した新たな進入方式の設定・運用
- 駐車場
 - ・路線拡充に伴う旅客増加に対応した駐車場の増設

方策2：運用時間(現行：8:30～17:00)の延長

- ・地元住民の同意が得られている19時までの運用時間帯を活用した運航ダイヤの実現

方策3：二次交通の充実

- ・松本バスターミナル(松本駅)と空港を結ぶシャトルバスの運行
- ・県内観光地等とのシャトルバス、乗り合いタクシーの運行
- ・レンタカー利用への支援

など

目 指 す 姿

リージョナルジェットにより信州と全国各地・東アジアを結ぶ「空の玄関口」であるとともに、その立地を活かした観光・賑わいの拠点

着実なステップアップを図るとともに、できるだけ前倒しで実現

“テイクオフ”(H28年度～)	“上昇”(H31年度～)	“巡航”(H34年度～)
<p>《国内路線》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌線の夏期増便 ・大阪(伊丹)線の期間延長 <p>《国際路線》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャーター便の多便化、定期便の誘致 ・関西空港等からのインバウンドの取り込み強化 ※国際チャーター便：30便/年 <p>《機能拡充》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RNP-AR進入方式の導入 ・駐車場の増設 ・エプロン、国際線ターミナルビルの整備に向けた検討・調査の着手 <p>特に平成28、29年度を「集中・具現化期間」とし、施策を集中的に推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の推進に向けて県の組織体制を検討 ・県、地元自治体などで構成するプロジェクトチームを設置 	<p>《国内路線》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規路線の開設 ・大阪(伊丹)線の通年運航 <p>《国際路線》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアとのチャーター便の充実、定期路線の実現 <p>《機能拡充》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エプロン、国際線ターミナルビルの整備 	<p>《国内路線》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡線の増便(3往復/日) ※就航路線・便数： 4路線・6便(往復)/日 <p>《国際路線》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期路線の定着 ※国際定期便： 2路線・4便(往復)/週 ※国際チャーター便：100便/年